

## 会 議 録

会議名	田名地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)	中央区役所 田名まちづくりセンター 電話 042-761-0056 (直通)		
開催日時	令和2年9月15日(火) 19時00分～20時30分		
開催場所	田名公民館 大会議室		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	5人(中央区長、副区長、中央区地域振興課長、田名まちづくりセンター所長、地域政策担当)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 役員選出 5 説明 (1) まちづくり会議について (2) 地域活性化事業交付金について (3) まちづくりを考える懇談会について (4) その他 6 議題 (1) 令和2年度まちづくりを考える懇談会について (2) 令和2年度まちづくり会議検討テーマについて 7 閉会		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

- 1 開会 (田名地区自治会連合会志村会長)
- 2 あいさつ (藤田中央区長)
- 3 自己紹介
- 4 役員選出

<結果>

全会一致で承認された。

(田名地区まちづくり会議会則第5条第2項)

役職名	氏 名	備 考
会 長	志村 勝美	田名地区自治会連合会会長

(田名地区まちづくり会議会則第7条)

副会長	田所 恒男	田名地区社会福祉協議会会長
副会長	木下 國博	田名地区青少年健全育成協議会会長
理 事	大谷 政道	田名公民館館長
理 事	江成 陽子	田名地区民生委員児童委員協議会会長
理 事	代田 修	田名地区自治会連合会副会長
理 事	金井 勝男	田名地区自治会連合会副会長

### 5 説明

- (1) まちづくり会議について
- (2) 地域活性化事業交付金について
- (3) まちづくりを考える懇談会について  
事務局より説明を行った。

### 6 議題

- (1) 令和2年度まちづくりを考える懇談会について

<主な意見等>

- 過去に懇談会テーマとした地域課題の解決に向けた進捗状況について伺う。  
(小島委員)
  
- テーマ内容により進捗状況に差があり、対応や検討を継続しているテーマがあるのは事実だが、地域活性化事業交付金の活用等により課題解決に繋がった事例もあると認識している。(志村会長)
  
- 令和2年度のまちづくりを考える懇談会については、当初は10月20日(火)の開催を予定していたが、コロナ禍の影響でまちづくり会議において懇談テーマの検討が進んでいないことから、役員会で検討した結果、今年度の開催を見送る旨を市に伝え、了承を得ていることを報告する。(事務局)
  
- 今年度は来年度の懇談会に向けた準備期間と捉え、まちづくり会議として地域課題への検討を中心に進めることについてご提案させていただきたい。  
(志村会長)  
⇒異議なし

(2) 令和2年度まちづくり会議検討テーマについて

<主な意見等>

- 各団体において直面している課題などを通じて、今年度のまちづくり会議で検討したい課題等について提案していただきたい。(志村会長)
  
- 新宿自治会は老人会(白寿会)の活動に課題を抱えている。年配者(高齢者)が増えすぎたことにより活動が停滞し、募集をしても動ける世代の入会者が少ない。特に子どもの通学路見守り活動の協力者が足りず見守りが行き届かない状況があり、子ども育成会としても心配している。地域の担い手になり得る次の世代は現役で仕事をしており、また自分の趣味を優先させる傾向もあり、担い手不足は地域の課題として認識している。(中里委員)
  
- 田名団地の自治会長を10年前に経験し、今年度自治会長に再就任したが、以前に比べて自治会加入率が非常に低下していることは課題であると認識している。当時200世帯程度だった加入世帯数が現在は113世帯となっている。どこの自治会も加入率の低下は課題だと思われる。自治会加入率の低下は老人会等の活動にも波及すると考える。田名地区全体の課題テーマとして対策を検討してはどうか。(金井理事)

○ 田名地区全体の自治会加入率は、15年前は65%程度だったが、現在は55%程度となっており、住民数は微増しているが自治会加入世帯数が減少していると認識している。加入世帯が減少すれば自治会活動の停滞・縮小も考えられ、テーマとしては大きいものであり、社会福祉協議会の活動等にも大きく影響すると考えている。(志村会長)

○ 自治会加入率の低下については、役員会の中でも大きな課題として認識している。5年前と比較しても約700世帯ほど減少しており、地域コミュニティの存続が危ぶまれる状況であると危惧している。この課題については地域が一丸となり、また、市にも協力を頂きながら取り組む必要があると考えており、それぞれの役割分担を整理して対策を検討する必要があると考えている。

一つ目として、単位自治会の中にある老人会や婦人会などの色んな関係者が一体となって自治会加入促進策を検討し、単位自治会で実行できることは何か。

二つ目として、地域として例えば様々なイベント等を行って加入促進に結び付けられる方策は何か。

三つ目として、自治会・地域の活性化、地域コミュニティの充実に向けて市に協力を要請することは何か。

この3点を踏まえて皆様の意見を集約できればと考えている。

(田所副会長)

○ 昨年度、地域活動ポイント制度を活用した地域活性化について懇談会において市長に提案したが、その後ポイント付与対象事業拡大について進捗はあるのか。老人会の活動をポイント付与対象としていただくと活性化に繋がると意見したが対象外となっている現状がある。また、この制度の導入により、一年間でどの程度地域が活性化したのかという検証もしっかり行わないと、課題だけが山積み、成果が表れないということはないとは思いますが、目に見える活性化を地域が感じる事ができないため、はっきりさせる必要があると感じるがどうか。青パトはモデル地区事業の中で付与対象となり一定の効果があるように見えるがどうか。

(小島委員)

● 昨年度2月の懇談会では、田名をモデル地区として位置付け、付与対象事業を拡大することによりマイナンバーカード取得者数の増加に繋げ、更に地域内でポイント利用が進むことにより地区内商店を活性化させることまでをセットで提案した。その結果モデル地区事業として認定され、新たに7つの付与対象事業が追加されたが、コロナの影響で青パトを除く付与対象事業が全て中止となっていることから、モデル地区事業期間が7月末から年度末まで延長されたところである。

今後はモデル地区事業を検証する中で、懇談会の場において提案された老人会の活動等を新たに付与対象事業とすることについても、地域との検討の場を設けて頂くよう引き続き要望していく。田名地区としては、地域活動ポイント制度を地域の担い手を増やしていくための一つの有効策として更に磨いていく必要があると感じているため、事務局も全力で応援させていただく。(事務局)

○ 残念ながらモデル地区事業の開始と同時にコロナが拡大した。楽しみながら地域活動に参加し、地域が仲良く活動していくことはとても大事であり、私としても実際に商店でポイント券を利用したときにとっても有効だと実感した。少し時間はかかると思うが、皆さんの意見を参考にしながら自治会加入促進にも活用していくと良いと思っている。(志村会長)

○ 小島委員の意見にもあるが、自治会加入促進策として単位自治会役員の仕事などもポイント付与の対象となると良い。例えば新規加入者に入会ポイントを付与するなど、制限については考える必要があるが、地区で自治会加入促進の仕事をしてきている人たちにもポイントを付与できる仕組みができると良い。また、市への要望として、福祉関係のサロン活動などの担い手に対する付与、あるいは子どもの活動、例えば地域のイベント等で活躍している鼓笛隊を見守る保護者などはかなりの時間を費やして地域のために活動してくれているので、そのような方にも付与できるよう考えていただきたい。福祉や子どもの関係となるとポイント原資となる予算確保としては、市の部局も多岐に渡ってしまうと思うがどうか。(田所副会長)

● モデル地区事業に係る予算措置や付与対象事業の決定は市民局が行っているが、制度開始当初からの対象事業には福祉部局で予算を確保しているものもある。新たに対象事業を追加するためには予算を確保する部局との調整が生じる。

総じて、市が決めた事業だけをポイント付与対象とするのではなく、田名地区独自の活動をポイント付与対象として地区が決定できる仕組みを構築することで、地域の活性化や自治会や団体の担い手の加入促進に繋がるような仕組みになっていくという一つの考え方として理解させていただいた。

次回以降のまちづくり会議においては、地域活動の基礎である自治会の担い手不足を解消する方策や自治会加入促進策を確立することは他地区に対しても通ずるものであり、その一つとして田名地区が提案している地域活動ポイント制度の活用や、その対象事業を拡大することについても併せて話し合って頂き、自分たちの役割と実効策、市に協力を求める事項などを多角的に検討していくということによろしいか。(事務局)

○ 自治会への加入を勧める際に一番説明を求められることとして「加入のメリット」があると思うが、そのメリットが「現金支給」ということだと長続きはしない。地域活動に対するポイント付与はそれとは異なるということを頭に置きながら、ポイント制度の有効活用も含めて次回以降のテーマとして議論を進めたいと思う。(志村会長)

○ 民生委員児童委員協議会でも自治会加入率の低下による悪影響を感じており、特に高齢者の加入、未加入の把握が敬老事業等に大きく関係している。やはり全ての方が自治会に加入していることが理想であり、民生委員としても加入促進を積極的に進めた方がよいという意見があることから、定例会においてグループワーク等による検討を始めた。

話し合いの中で、自治会加入を案内する時に自治会の活動状況が分からないという声が多いとの意見があったことから、年間活動計画などの資料を提示する必要があるのではないか。とか、ごみ置き場についても自治会に加入していただいでみんな管理していきたい、回覧板を通じてのあいさつや声掛けなどご近所のコミュニケーションが大切だとの意見があった。

今後も民生委員児童委員協議会として積極的に自治会加入について声掛けを行っていくことで話が進んでいる。(江成委員)

○ 自治会加入よりも地域活動を一緒にやりましょうという考え方が先かとも思う。ごみ置き場の管理も自治会員でなくてもごみは捨てることができるので、身近な活動を一緒にやっていくその先に自治会への加入があるのかとも思っている。(志村会長)

○ 青パトについても田名地区では他地区には見られないほどの活発な活動を展開しているが、果たしてその防犯効果は他地区と比べてどれほどのものか、地域の皆様に対して情報宣伝ができていないと感じている。様々な活動とその成果が地域に知られていないことがあると思う。地域活動ポイントの盛り上がりもまちづくりセンターにすれば知ることができるが、地域の皆さんには十分に伝わっているとは思えない。加入者にも未加入者にも伝わるようにしていくことが大事だと感じている。田名北小学校の登下校を毎日見守っているが、あいさつを続けていると子ども達もあいさつをするようになる。やはりアクションを起こしていかないと変わっていかないと思っている。どんなアクションができるのかを皆さんで考えていきたい。(大谷理事)

- 次回以降は本日のまとめを基に検討を始める。各自で次回に向けて考えてきていただきたい。懇談会は来年度の開催を目標にする。(志村会長)

## 7 閉会

田所副会長が閉会

以 上

## 令和2年度第1回田名地区まちづくり会議委員名簿（敬称略）

令和2年9月15日

	団体名	役職	氏名	出欠
1	田名地区自治会連合会	会長	志村 勝美	○
2		副会長	代田 修	○
3		副会長	金井 勝男	○
4		会計	中里 昌弘	○
5	田名自治会連合婦人会	会長	外岩戸 満里子	○
6		副会長	柴崎 芳江	○
7	田名公民館	館長	大谷 政道	○
8	田名地区社会福祉協議会	会長	田所 恒男	○
9	田名地区民生委員児童委員協議会	会長	江成 陽子	○
10		民生委員児童委員	首藤 幸治	
11	田名財産管理委員会	会長	田所 昌訓	○
12	田名地区公共交通整備促進協議会	事務局長	鈴木 鐵蔵	
13	田名地区防犯協会	幹事	篠崎 隆司	○
14	田名地区青少年健全育成協議会	会長	木下 國博	
15	P T A田名中学校区三校合同会議	代表（田名小学校P T A副会長）	金井 憲一	○
16	田名地区老人クラブ連合会	会長	小島 昭二	○
17	J A相模原市田名支店運営委員会	市農協理事	田所 茂雄	
18	田名地区ボランティアグループ	代表（市食生活改善推進団体 わかな会田名地区）	浅見 泰子	○
19	田名地域包括支援センター	センター長	矢口 君代	○
20	有識者			

出席（○） 15

欠席（ ） 4

合計 19